



第6回PT会議より

～PTメンバー同士、今後の取り組みを語りあう～

小原崇裕 教諭 3年1組「物理」

PTメンバーは1学期のふり返りと反省をうけて、各自が考えている2学期以降の取り組みについて、グループに分かれて意見交換しました。メンバー1人1人が高い意識をもっていることがよくわかりました。やれるかどうかは別として…。

- ・外部(大学等)と積極的に連携していきたい。
- ・ICT機器を積極的に取り入れていきたい。
- ・他科目の先生とのコラボを実現したい。
- ・日本語を使わない英語の授業を目指したい。



～武高アクティブ活動を色々な場面で報告～

これまでの武高アクティブの活動を、PTメンバーが色々な研究発表会の場で報告しています。夏休みに新潟県で開催された「北信越物理化学部会」では小原先生が発表し、また8月の高教研では、数学科の今川先生・竹林先生が「主体的に考える授業」というテーマで発表しました。数学科のお二人は、生徒の反応を確かめるためのアンケートも実施しています。「テスト返しによるAL」や「説明しあう授業」では、生徒の反応は賛否両論ある結果でしたが、「具体物を用いた授業」では、ほとんどの生徒が「よい」と答えていました。



ICT講習会より

9/25(火)の職員会議終了後、ICT講習会が開催され、約50名の教職員の方々が参加されました。講師の久島先生からはおすすめの機器や、接続の方法など、また契約費用に至るまで教えていただきました。タブレットを使用したカメラ機能は、実物投影機としても使うことができ、机間巡視の際にも有効利用できそうです。また大辻先生の授業実践例では、ワークシートを直接黒板に写し、生徒にチョークで直接記入させてみたり、前時の授業を写真で残し、次の授業の導入で前時の振り返りのために投写する、などの授業実践例を紹介してもらいました。参加した先生方からは、ICT機器に対する垣根が低くなった、という感想を聞くことができました。



授業実践報告

「～遠隔授業システムを用いて～」

「電子のらせん運動の観察」この実験には比電荷測定装置とよばれる高価な実験設備が必要です。しかしそのような設備を各学校に置くことはできません。そこで教育総合研究所・サイエンス・ラボの橋本先生による研究所での実験を、遠隔装置を利用して生徒に配信するという試みにトライ！しかも撮影カメラを固定せず、様々な角度から捉えた映像が配信されてくるので、らせん的な動きをよりリアルに捉えることができ、目の前で実験を観察しているような効果が得られます。

授業では画像の中から先生が生徒に問いかけ、生徒は画像に向かって身振り手ぶりで回答する、という光景がありました。さらに生徒の解答をうけて検証実験の映像が映し出される、という、なんとハイテクな授業展開に驚かされました。生徒の反応は上々で、「学校では見ることができない実験が見られて良かった」「実際に実験している人と質問などのやりとりができるのがいい」などの声があがっていました。



遠隔授業については、先生方から多くの質問がありました。

- Q. 研究所と武生高校の2地点での通信だったのか？
 A. 今回は2地点だったが、次回は高志高をいれて3地点でやる予定。
 Q. 事前の打ち合わせにどれくらいあったのか？
 A. 1週間前前からメールでやりとり。念のため前日に武生高で打ち合わせをしたが、次からは打ち合わせなしでもすぐできる。
 Q. 理科以外の教科でやるメリットは、どのようなことが考えられる？
 A. 普段と違う先生との違う手法での授業は、生徒にとってどの科目でも効果的だと思う。将来的には海外の高校との交流も可能かも。

「濃度計算を調整の実験に生かす」

谷口 溪 教諭 1年6組「化学基礎」

生徒が苦手としているモル濃度の計算や質量パーセント濃度の計算について、グループワークを取り入れて計算方法をより深く理解させること、さらにその計算を元に実際に調製できるようになること、この二つの指導目標をたてての授業でした。班で意見交換する前に個人で計算をさせ、そのあと意見交換し、それを班毎にホワイトボードにまとめる、という過程をとることで、「自分で考える」「自分の意見を言う」「人の意見を聞く」「意見を集約する」という力をつけさせたい意図が伝わってきました。また実験の際には、スクリーン上に事前に準備しておいた実験の手順を録画した動画をくり返し映し出していました。生徒たちは自分で計算で得たデータをもとに、映像を参考にしながら、主体的に調製しようと取り組んでいました。

ひとりごと 11月の「公開授業」では、3年学年会をはじめ、多くの先生方に迷惑をおかけすることになりますが、ご理解をお願いします。ICT講習会やPT会議に参加していると、多くの先生方が積極的に「思考を深める」工夫をされていて感心させられ、自分も何かやってみないと、という気になってきます。